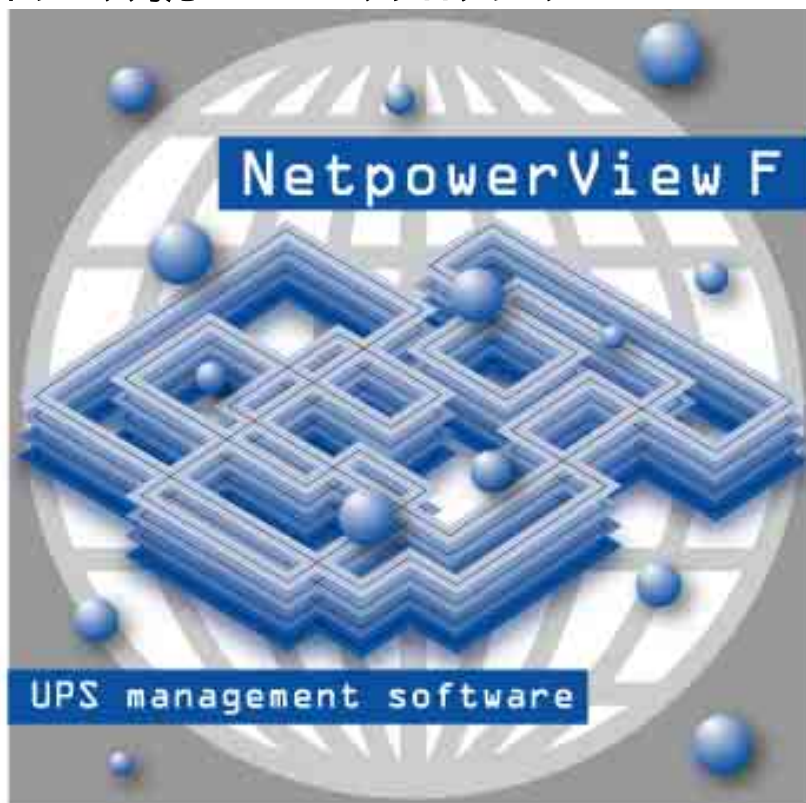


ネットワーク対応 UPS モニタプログラム



NetpowerView F[®] Red Hat Enterprise Linux AS 用 インストール・ガイド

目次

第1章 NetpowerView F 製品概要.....	1
第2章 ハードウェア	2
第3章 ソフトウェア	2
第4章 インストール.....	3
4.1. インストールに関する注意事項	3
4.2. UPSモニタプログラム.....	3
4.3. 再インストール	5
第5章 アンインストール	5
5.1. UPSモニタプログラム	5

商標

NetpowerView Fは富士電機(株)の登録商標です。その他すべての登録商標, 商品名, 会社名は各企業の所有物であり, 情報の記載のみを目的として使用されます。

第1章 NetpowerView F 製品概要

● UPS 管理プログラム

UPSと接続したLinuxサーバ上で実行します。UPS や UPS モニタプログラムと通信し、UPS の故障検出やデータロギング、指定ユーザへのイベント通知、オペレーティングシステムやアプリケーション・プログラムのシャットダウン等の動作を行います。

UPS 管理プログラムはLinuxのデーモンとして実行されるので、構成を行うとき以外はユーザの目に触れることはありません。

● UPS モニタプログラム

UPS 管理プログラムと通信し、UPS の故障やロギングデータの表示、バッテリーテストコマンドの発行、スケジューリングの設定等を行うユーザインタフェースプログラムです。

Linux 版と Windows 版があり、UPS 管理プログラムと同一マシンで動作させることや、ネットワーク上のマシンで動作させることが可能です。機能の詳細は各ユーザズ・ガイドを参照願います。

● RCCMD(Remote Console Command)

RCCMD は、同一ネットワーク(TCP/IP)上に存在する複数サーバのシャットダウンを可能にします。

システム構成としては、同一ネットワーク上の複数サーバが、1 台のUPSから電源供給されているような場合を想定しています。複数サーバのうち1台(マスタサーバ)にUPS管理プログラムをインストールし、他のサーバ(スレーブサーバ)にRCCMDをインストールします。

これにより、停電発生時にマスタサーバからの指令でスレーブサーバをシャットダウンさせ、その後、マスタサーバ・UPSの順にシャットダウンさせる、というような連携動作をさせることが可能です。

[注意]本文中の画面イメージ等は、ソフトウェアのバージョンや設定、ハードウェアの使用環境により実際の表示と一致しないことがあります。

第2章 ハードウェア

NetpowerView Fを使用するには、以下のハードウェアが必要になります。

IBM PC-AT 互換機 (Pentium 200MHz 以上)
ハードディスクの空き容量: 100MB以上
メモリ: 64MB以上

第3章 ソフトウェア

NetpowerView Fは以下のディストリビューションに対応しています。

Red Hat Enterprise Linux AS

[注意]UPS モニタプログラムと UPS 管理プログラムを動作させるサーバではタイムゾーンの設定を下記の場所に合わせる必要があります。

タイムゾーン: アジア/東京

Red Hat Enterprise Linux AS では timeconfig コマンドを実行することによって現在のタイムゾーンの設定を確認できます。
タイムゾーンの確認と設定方法の詳細は Linux のマニュアルを参照して下さい。

以下のネットワークプロトコルがインストールされている必要があります。

TCP / IP

以下のデスクトップ環境が必要です。

XWindow システム

第4章 インストール

4.1. インストールに関する注意事項

Linux は、大文字、小文字を区別します。コマンドやファイル名を入力する時は、大文字小文字に注意してください。

入力するコマンドは、**太字**で記述してあります。

4.2. UPS モニタプログラム

1. root ユーザとして Linux システムにログインします。

2-a Web から RPM パッケージをダウンロードした場合は、RPM パッケージが保存されているディレクトリに移動します。

[注意] NetpowerView F がすでにインストールされている場合は、一度アンインストールをしてからインストールを行ってください。アンインストールの方法は“5.1 UPS モニタプログラム”を参照してください。

- インストールされているかどうかの確認方法は、下記コマンドを実行します。

```
rpm    qv    npvf
```

NetpowerView F がすでにインストールされている場合は次のようなメッセージが表示されます。

```
npvf    *****
```

(*****には、UPS モニタプログラムの Version が表示されます。

例 : version5.0.0 の場合は、npvf-5.0.0-1)

NetpowerView F がインストールされていない場合は次のようなメッセージが表示されます。

```
パッケージ npvf はインストールされていません
```

2-b CD-ROM でインストールする場合は NetpowerView F 用の CD をセットし、cd コマンドを使用して、RPM パッケージファイルがあるディレクトリに移動します。

- CD - ROMのマウント方法
マウントのコマンド例を記述します。

mount /dev/cdrom /mnt/cdrom

***Web から RPM パッケージをダウンロードした場合は上記コマンドの入力必要ありません**

- CD-ROM をマウントした後に cd コマンドを使用して、NetpowerView F Linux 版のパッケージファイルがある以下のディレクトリに移動します。

cd /mnt/cdrom/linux/npvf5000_AS21/rpms

***Web から RPM パッケージをダウンロードした場合は上記コマンドの入力必要ありません**

[注意]NetpowerView F がすでにインストールされている場合は、一度アンインストールをしてからインストールを行って下さい。アンインストールの方法は“5.1 UPS モニタプログラム”を参照して下さい。

- インストールされているかどうかの確認方法は、下記コマンドを実行します。

rpm qv npvf

NetpowerView F がすでにインストールされている場合は次のようなメッセージが表示されます。

npvf *****

(*****には、UPS モニタプログラムの Version が表示されます。

例:version5.0.0 の場合は、npvf-5.0.0-1)

NetpowerView F がインストールされていない場合は次のようなメッセージが表示されます。

パッケージ npvf はインストールされていません

3. rpm コマンドを実行して、UPS モニタプログラムをインストールします。

rpm ivh npvf 5.0.0.AS21 1.i386.rpm

UPS モニタプログラムは、/usr/ups/xupsmon の下にインストールされます。

4.3. 再インストール

再インストールをする場合は、一度アンインストールをしてからインストールして下さい。
上書きインストールはできません。

第5章 アンインストール

5.1. UPSモニタプログラム

rpmコマンドを使用してアンインストールします。

```
rpm -e npvf
```

[注意] アンインストール後、各種設定ファイルやログファイルが残る場合があります。
不要であれば手動で削除して下さい。